

科目名		授業形態	担当教員名	
解剖学Ⅱ		講義	小形 晶子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
60 時間（2 単位）		30 回	1 年次	後期
授業の目的・概要				
解剖学は人体の形と構造を研究する学問である。作業療法士にとって、骨や筋、神経など、運動に関する臓器は特に重要であるが、同時に人体全体の構造についても十分な知識を持つ必要がある。この科目では、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系に加え、運動に特に関連の深い神経系について取り扱う。各器官系の構造と機能およびそれぞれが生体の中でどのような機能を持っているかを理解することを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 胃、腸、肝臓および嚥下に関与する構造体を説明できる。      5. 脳および脊髄の構造を説明できる。 2. 腎臓および排尿に関与する構造体を説明できる。            6. 上行性および下行性伝導路の種類と各伝導路の主要な部位を説明できる。 3. 生殖に関与する構造体と機能を説明できる。 4. 内分泌に関与する構造体と機能を説明できる。				
授業計画				
回	内容		回	内容
1	消化器系Ⅰ（消化管の一般構造、腸間膜）		16	終脳
2	消化器系Ⅱ（口、咽頭、食道）		17	脳室
3	消化器系Ⅲ（胃、小腸、大腸）		18	脳の血管
4	消化器系Ⅳ（肝臓と脾臓）		19	脳神経Ⅰ（Ⅰ～Ⅴ脳神経）
5	泌尿器Ⅰ（腎臓）		20	脳神経Ⅱ（Ⅵ～Ⅻ脳神経）
6	泌尿器Ⅱ（尿管、膀胱、尿道）		21	脊髄神経Ⅰ（頸神経叢と腕神経叢）
7	男性生殖器		22	脊髄神経Ⅱ（胸神経、大腿神経叢と仙骨神経叢）
8	女性生殖器		23	自律神経Ⅰ（概要と形態）
9	内分泌系Ⅰ（内分泌系の概要）		24	自律神経Ⅱ（交感神経と副交感神経）
10	内分泌系Ⅱ（内分泌器官）		25	感覚器Ⅰ（皮膚、嗅覚器）
11	神経系の構成要素		26	感覚器Ⅱ（視覚器、聴覚器、味覚器）
12	神経系の発生		27	上行性伝導路Ⅰ（触覚と痛覚）
13	脊髄		28	上行性伝導路Ⅱ（特殊感覚）
14	脳幹と小脳		29	下行性伝導路
15	間脳		30	人の発生と分化
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
筆記試験	90%			
レポート・課題				
小テスト	10%			
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能	医療情報科学研究所		メディックメディア	
実習にも役立つ人体の構造と体表解剖 第2版	三木明德		金芳堂	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				